



(1) 美木多マップ作り

(2) 130 人の作品をクリックابلマップに

(3) 小学校 総合的な学習 その他

実践者 堺市立美木多小学校

着本倫子 亀山ひろみ 吉田勝子 小笹雅章 下河内いく子

執筆者 小笹雅章

(4) アイデア

画像を貼り付けた調べ学習のまとめを HTML 形式に保存し、それをクリックابلマップに貼り付ける。

CD に焼いて交流している他校の児童に送り 校区の様子を紹介し合う

・メリット

画像を取り入れた視覚に訴える分かりやすいまとめが出来る。クリックابلマップにすることで、校区の中での位置関係を確かなものにしていくことが出来る。HTML にまとめるので発信に適している。

(5) 総合的な学習 『美木多マップ作り』

(6) 新指導要領 第 1 章総則 第 3 総合的な学習の時間の取扱い

3 各学校においては、2に示すねらいを踏まえ、例えば国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的、総合的な課題、児童の興味、関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。

(7)

自分たちが住んでいる地域で興味関心のあるものについて進んで調べることができる。

活動を通して、地域に対する理解と愛着を深める。

調べたことをコンピュータを利用してまとめ発信することができる。

(8)

HTML 形式でファイルを保存し組み立てていくことによって、出来上がった『美木多マップ』を一般的なパソコンで特別なソフト無しで自由に閲覧できるようになる。CD に焼いて交流している小学校の3年生に送り校区の様子を紹介できる。さらに CD の配布や貸し出しなどで、保護者にも学習の成果を知ってもらったり、地域の様子を紹介したりすることも出来る。また、データの追加や、作り直しが容易であるため、学年が上がるにつれて『環境』や『福祉』など他のテーマも取り込んでいける。複数学年が協力してまとめていくことも出来る。



そして何より HTML はインターネットのホームページの形式である。「美木多マップ」を世界に向けて発信することも可能である。そういった環境の整備が目前にせまっている。子どもたちと共に夢を広げていきたい。

(9) 単元の位置付け

本単元は「総合的な学習」として、1年間の地域学習を中心とした社会科学習を補完し発展させるものとして位置付けた。

<1年間の成果をもとに自分の力で>

3年生は、社会科の「住みよい町づくり」や「私たちの市のようす」の単元で、校区や堺市について学習してきた。一学期には、田植えの見学・校区めぐりを行い、図書館や体育館を見学した。二学期には、地域の園芸農家の見学、校区を離れてせっけん工場や、自転車産業（自転車博物館）、臨海工業地帯の見学をした。さらに、自分の家族が日ごろ利用する近くの商店についても見学に行った。それらの活動を行う際には「調べたいこと」、「聞きたいこと」、「見たいこと」を話し合う中で課題意識をはっきりと持たせるようこころがけた。

見学する際のマナーやインタビューの仕方など、調べる方法についての学習もしてきた。まとめ方についても、「ノートにまとめる」「掲示物にまとめる」「パソコンで印刷物にまとめる」「個人でまとめる」「グループでまとめる」とさまざまな方法を経験してきた。

本単元ではこうした今までの学習を踏まえて、課題を決め、学習をすすめ、パソコンを使ってまとめ、発信していくという全過程を子ども一人一人が主体的にすすめることを目指した。

<交流校の児童の呼びかけに応えて>

2学期から竹城台小学校の3年生と交流をはじめていた。12月に竹城台小学校の3年生から、「校区調べ」の掲示物とVTRレターが届いた。竹城台の子どもたちが自分たちの校区を元気に一生懸命発表する姿を見て感心するとともに、「美木多小学校のみなさんも校区のことを教えてくださいね」と呼びかけられ、大いに意欲を高め、「美木多マップ」を作って送ろうということになった。

<テーマを決めて取材する>

4クラスそれぞれで、美木多小校区で紹介したいものについて時間をかけて話し合った。その結果をプリントにして配布し繰り返し話し合う中で、特定のテーマに集中しない広がりのあるマップ作りになるよう工夫した。

取材は放課後や休日、冬休みに行った。インタビューの内容、画像の準備、デジタルカメラの貸し出し等、一人一人の取り組みにあわせて子どもと相談しながら進めた。

<パソコンを使ってまとめる>

「太郎スマイル」を使ってまとめホームページ用書き出し機能を使って保存した。同ソフトにはクリックパレットがあり3年生でも無理なく文字を入力することが出来た。

本時の授業では、完成した子どもの作品をT.Tがすぐにサーバーにコピーしてリンクをつなぎ、授業



の最後には子どもがマップをクリックして見せながら自分のまとめを発表した。

(10)

<自力で取り組む子ども達>

1学期からの見学やインタビューの経験を生かし、子ども達は主体的に活動した。調べたことをまとめる中で新たな疑問が出来てもう一度取材に行く子もいた。子ども達が自ら選んだ課題について調べる切り口は新鮮で、「牛の顔は、子どもの顔が、2つ分ぐらいです。」歩いて工場の中は106歩でした。」など実際に体験した者ならではの五感に訴える表現も多く見られ、見る者に楽しく興味深いマップとなった。

夏休みの思い出」「しんざへのお手紙」(読書感想文)「社会見学のまとめ」などの活動で、パソコンを使い画像を貼り付け文章を書くという活動を積み重ねて来ていたので、子ども達は自分の力でどんどん作業をすすめていった。パソコン操作のことで何か戸惑うことがあっても大抵の場合子ども達どうしの教え合いで解決していた。

<発信し反応をもらう喜び>

完成した美木多マップを竹城台小学校に送った。ビデオレターをもらってからずいぶん時間が経過してしまっていたが、呼びかけに応じて美木多マップを完成し送ることが出来た喜びは大きかった。「竹城台の子びっくりするやろなあ」と出来栄えに大変満足していた。

懇談会で保護者にも見ていただき、たくさんの感想をいただいたので子ども達に紹介した。いずれも子ども達の成長と頑張りを称えるもので、子ども達は照れるほどに喜んでいた。

<保護者のお手紙より>

はじめてコンピュータールームに入りました。おばちゃんにはパソコンをしたことがないので はじめはドキドキしました。先生や ちゃんに教えてもらいながら、次々と出てくる画面にびっくりしました。みんながとてもがんばってすごいものを完成させたんだなあと感心しました。写真、絵、説明これからの3年生の役にも立ちそうですね。何よりもみんなの力でみんなの宝物ができたと思いました。スバラシイの一言です!

<子どもの感想より>

ぼくたちは美木多マップを2学期から今まで、何をかこうか決めたり、取ざいしたりお話をコンピューターで作ったことが苦ろうしました。かんせいしてほんとうによかったです。竹しろ台と美木多のちがうところを分かってもらいたいと思って作りました。これで竹しろ台小学校の三年生によるこんでもらえると思います。